

第1章

大不況が始まりそうって 本当ですか？

経済危機迫る
でも、兆しが感じられない

危機は
突然始まるもの

株・不動産
史上最高値

物価上昇

欧洲は危ない

過去の危機はすべて
前触れもなしに始まつた

これ以上の高値で
誰も買わない

オイルショック並みの
物価上昇が始まつた

英伊の景気崩壊の可能性
世界を直連れに

【この章での学び】経済指標から未来予測ができる

- ・不況が迫っても、実際は感じにくい。大不況の到来を予測できた人はまずいない。大変動は突然始まるからだ。
- ・株価が不況の到来を教える。
- ・歴史上、物価高が株価下落を引き起こしてきた。昨年から物価高は始まっている。

1 本書を要約すると



林さんの主張をひと言でいうと、どうなりますか？



天国と地獄がまもなく一緒にやってくるということです。
地獄とは、戦後最大の大不況がやってくるということ。天国とは、
今世紀最大の投資チャンスが訪れるということです。



両極端の2つがどうして一緒に現れるのですか？



地獄が天国をもたらすからです。
台風や地震といった自然災害が近年巨大化しているように、経済
災害も巨大化してきています。

図表1-1にわかりやすく図示しました。従来の経済危機は地域限定でした。日本でバブルが崩壊し、株価が8割下がるような不況に陥っても、米国や欧州はわが世の春を満喫していたのです。日本のバブル崩壊後の不況は25年間も続きましたが、それ以外の主な不況は国内外とも数年で終わっています。

これに対して、これから世界を襲うことになる危機は規模の巨大さや悪

影響が続く期間の長さが群を抜いたものになるでしょう。つまり、近い将来、世界恐慌と変わらないレベルの経済危機がくるということです。ぼくはこれを「ハリケーン型経済危機」と呼びます。

ここからが大事なところです。物事には表と裏があるように、経済危機にも表裏があります。一般に、自然災害の危機は不幸しかもたらさないはずですが、経済危機はそれだけではないという意味です。最大級の変化が起きるとき、そこには大きなチャンスが潜んでいます。ごく少数だけが気づきます。ハリケーン型経済危機から自分の資産を守ることに本気で取り組もうとする人たちです。しかも、経済危機のパワーが強い分、大儲けにつながります。

図表1-1 経済危機のイメージ



まだよくわかりません。

何も変化がないところには、チャンスが生じないのはわかるでしょう。どんな変化であれ、どこかにチャンスがあるわけです。さらに、変化が大きければ大きいほどチャンスも大きくなるのです。これからじっくりお話ししていきましょう。

第6章

今世紀最大の投資チャンスって何ですか？

- ・預金、現金、証券、保険への対策を万全に

（対策）
政府を
信用しない

- ・庶民を裏切る可能性があることを歴史は示す

（対策）
預金を守る

- ・1000万円を超える預金をしない
- ・銀行を分散する

（対策）
金（ゴールド）
を買う

- ・安全資産
- ・本物の通貨として脚光
- ・危機のときほど上がる
- ・現金対策を忘れずに

（史上最大の好機）
ピンチが
チャンスに
変わる

〈基礎編〉金が恐慌時に暴騰するって本当ですか？

【ここでの学び】世の中が混乱するほど金は上がる

- ・本物の通貨「金（ゴールド）」の価値が増す。1オンス 7000 ドルが目標。現在の価格の 3.6 倍の上昇。日本円では 1 グラム 2 万円が目標。
- ・資産を守るには、現金・預金ができるだけ金（ゴールド）に換えておく。
- ・預金は 1 銀行当たり 1000 万円までにする（全銀行の倒産時には、1000 万円以下でも預金が 100% 保証されないリスクもある）。
- ・株式や債券、不動産には投資しない。貯蓄性の保険は控える。
- ・銀行が閉鎖されると、1～2週間は預金の引き出しやオンライン決済ができなくなると考へて、手元に現金を置いておく。

1 預金や保険、証券は恐慌時にどうなりますか？

◆一 政府の歴史は庶民裏切りの歴史



自分の資産を守り、増やすにあたって重要な方針は何でしょうか？



政府を信用しないことです。「政府がマネーを刷りたがる」のは大昔からのことです。コインの水増し（貴金属含有量の削減）は紀元前のギリシャ時代から始まっています。西暦 46 年、ローマ帝国のネロ皇帝は金の含有量を 4.5%、銀を 11% 減らしたといわれています。また、欧州では 10 種類の通貨の平均的な銀含有量が 1400 年に約 8.5 グラムだったものが 1850 年には約 1 グラムまで減少しています。450 年間にマネーが 8.5 倍に薄められたわけです。

日本でも行われてきたマネーの刷りすぎ

日本で最初のインフレは古代通貨、和同開珎（わどうかいほう、708年発行）の切り替え時に起きたとされている。和同開珎に替わる通貨として760年に万年通宝が発行された。含有量が同じなのに、万年通宝1枚に対して和同開珎10枚の交換比率が設定されたのだ。新しい1万円札（浜沢栄一）に交換してもらうのに、旧札（福沢諭吉）を10枚持つてこいといわれたようなものだ。

徳川家康が発行した慶長小判（1601年）は4.76匁（=17.85グラム）の重さだったが、年月の経過とともに重量が減り、万延小判（1860年）は0.88匁しかなかった。

◆—①預金：銀行倒産を前提に

預金に対する対策とは何でしょうか？



お金を預けている銀行が倒産しても守られるようにすることです。



〔預金を守るためにの鉄則〕

- ・1行当たり1000万円を超える普通預金。定期預金をしない。
- ・銀行を分散する。
- ・預金額の大きい人（例：1億円）が銀行を分散するのは現実的でない。普通預金をあきらめて利息のつかない当座預金（決済用預金）に預け替える。企業は当座預金のみに切り替える。全額保護対象となる。
- ・ただし、全銀行の倒産時には、決済用預金や1000万円以下の普通預金でも100%保証されないリスクがある。
- ・国債を保有していない銀行は倒産しない。その点からネット銀行は安全だろう。



1000万円以下なら本当に安全なのでしょうか？